

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2570100863		
法人名	医療法人社団洛和会		
事業所名	洛和グループホーム坂本1階		
所在地	大津市下阪本6丁目13-11		
自己評価作成日	平成29年11月11日	評価結果市町村受理日	平成30年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.keirokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2570100863-00&amp;PrefCd=25&amp;VersionCd=022">http://www.keirokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2570100863-00&amp;PrefCd=25&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年1月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自立支援に重点を置き利用者の生き生きとしたその人らしい暮らしを大切にしている。一人ひとりのニーズをしっかりと把握し、ケアプランに反映させることで、実際の暮らしの場面で実践に近づけている。  
その人らしい生活を支援する為に、その人を支えている人や社会資源(家族・主治医・訪問看護師・訪問歯科など)との連絡を密にとり、必要な情報の共有を行い、連携を図っている。  
終末期に近づいても今まで通りの暮らしが継続できるようグループホームでできる限りのターミナルケアに取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは当地に移転後、地域との関わりに力を注ぎ自治会への入会を果たし、地蔵盆のお供えをしたり、地域の文化祭の見学や防災訓練など地域行事に参加しています。紙芝居やウクレレ演奏などのボランティアの来訪もあり、少しずつ地域との関わりを広げています。食事は三食ともホームで作るユニット毎に利用者の好みを聞きながら献立を考え、炒めるなどの調理や盛り付けなど利用者のできることに携わってもらい、職員と同じ食卓を囲み談笑しながら食事を摂っています。クリスマスや正月のお節料理などの行事食を取り入れたり、家族の参加を得てホテルで会食をするなど食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。利用者の状態が重度化した場合には家族や医師、訪問看護師と話し合いを重ね、協力しながら終末期の支援にも取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を構築し、実践に繋がれるように努めています。「その人らしさを大切に笑顔でやさしく寄り添うケアを目指します」	ホーム独自の理念をパンフレットに記載しフロアに掲示すると共に新任入職時には理念に込めた思いなどを説明し職員への意識付けを行っています。理念を基にケアの方針や取り組み等を具体的に決め日々の実践に繋げており、職員は毎月のミーティングにて理念を振り返り、確認を行いながら実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域の行事や防災訓練などに参加しています。利用者と一緒に散歩に出た際は、近所の方と挨拶を交わすなど交流を深めています。	自治会に入会し広報誌や運営推進会議にて地域の情報を得ており、地蔵盆には利用者と一緒にお供えを届けたり、地域の文化祭の見学などに出かけています。日々の散歩時や買い物時には近隣の方と挨拶を交わし、紙芝居やウクレレ演奏などのボランティアの訪問もあり地域との関わりが少しずつ広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を設置し、地域の困りごとへの対応をしています。また、行事などに参加した際、近所の方からの相談もあり、積極的に応じています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治連合会会長、民生児童委員、社会福祉協議会会長、地域包括センター職員等の参加があり、2ヶ月に一度開催しています。利用者の状況、行事の報告、防災についてなど、意見交換をしており、運営に生かしています。	会議は家族や自治連合会会長、民生児童委員、社会福祉協議会会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。ホームの状況説明の後、年1回の満足度調査結果について報告をしたり、離設についての質問がありホームの方針について伝えるなど質問に対しては都度返答し、要望等についてはミーティングにて検討しサービスの向上に活かすよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大津市の担当者とは、必要な際にすぐに連絡を取れるようにしています。運営推進会議の際には、地域包括センターの職員を通じて情報交換、意見交換等を行っています。	市町村とは事業所所長を通して関わりを持っていますが、管理者が出向いた際には会話を交わすこともあります。行政主催の研修には内容によってはできる限り参加するようにしています。行政職員の参加する年3回の介護事業者勉強会に参加したり、連絡会議にもできる限り参加したいと考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任時の研修や洛和会介護部門全体の研修などで、必ず身体拘束について学び、月に一度ユニットごとにカンファレンスを行い個々に介護状況を話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	年1回法人主催の研修会に参加した職員が伝達を行い全職員に周知しています。玄関の施錠については何度も話し合いを重ねており、利用者にとって居心地の良い場所であるよう夜間以外は常に開錠しています。外に出たいという希望があれば職員が付き添い出かけています。言葉のかけ方にも常に留意しており不適切な言葉かけが見られた場合は管理者が注意をしています。	

洛和グループホーム坂本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新任時の研修や洛和会介護部門全体の研修などで、必ず虐待の防止について学び、月に一度ユニットにてカンファレンスを行ない個々に介護状況を話し合い虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けてきた職員が他職員に伝達研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約解除時には十分な説明を行い、疑問や不安の解消に努め、信頼関係を築けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の想いを聞き、ケアプランなどに反映さえていけるよう努めています。家族には年に一度満足度アンケートを実施して、要望を聞く機会を持っています。また、面会時や運営推進会議で意見の言いやすい雰囲気と信頼関係を築けるよう努め、希望や要望に応えられるようしています。	年1回の満足度調査や運営推進会議、面会や電話をかけた際等に家族からの意見や要望を聞いています。フロアによっては利用者の様子や暮らしぶりについては月1回手紙を郵送し伝えていきます。体操や散歩についての要望があり、歩く機会を増やすなど全体のサービスに反映させています。個々の要望については都度検討し対応するよう取り組み、結果は個々の家族に伝えていきます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	原則となる事は説明し理解を求めようとしている。意見や提案は毎月のカンファレンスや管理者面談などにおいて出来る限り話を聞く機会を設けるよう努めています。	職員の意見や提案は月1回のミーティングや朝夕の申し送り時、日々の業務の中で聞いており、ミーティングに参加できない職員からは事前に聞くようにしています。おむつや物品の発注などの各担当者から意見が出ることもあります。入浴日や入浴時間についての提案があり職員間で検討し業務分担の改善に繋げるなど出された意見はサービスや運営等に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員やりがいアンケートを年一回行っています。また、キャリアパス初級の職員は「力量評価」を年2回行っており、管理者と面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの運用、力量評価を行い、その職員にあった研修を、勤務表調整を行い出来るだけ受けられるようにしています。		

洛和グループホーム坂本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の研修を通じて他の事業所との交流(見学など)を行ないました。別の法人のグループホームとも交流もっています。また、比叡ブロックの介護事業所の勉強会に参加しています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談で本人様の不安が軽減できるような面談を心がけ、ご本人の情報を元に信頼関係の基礎として会話に何気なく得た情報をとりいれながら、入居後も多く関わられるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込み、初期面談の時点で家族様が現在抱えておられる不安や悩み、施設に対しての考えや希望を出来るだけ理解、解決出来るように考え入居後も、意向に沿いながら、どのように支援していけるか共に考えていけるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点で本人の出来ること、出来ないこと、家族様の要望を正確に把握し、施設内や医療連携、介護用具なども視野にいれ具体的な支援が出来るよう勤めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ってもらえるように日常の家事などを出来るだけ一緒に行ない、テレビを見たり談笑したり、当たり前の日常を共にしている者という関係性を大切にしながら共に笑い、悲しみ、励ましあう環境作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで本人様の様子を伝え家族様の意向などを聞いたり運営推進会議や年間行事への参加も家族様に都度、お便りでのご案内し、利用者様への支援のあり方など家族様と相談し協力を得ながら行なっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や知人の面会、外出、普段の日常会話に昔の話、家族の事、していた仕事、住んでいた場所の事など盛り込みながら関係が途切れないように努めている。	定期的に帰省し自宅で過ごしたり、孫やひ孫と過ごす方などがおり、薬や身支度など外出がスムーズにできるよう支援したり、自宅に不要なものを持ち帰り、必要なものを持って来る方もおり都度支援しています。親戚や知人の面会時にはフロアに案内し、椅子やお茶の用意をしゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。また外出時には以前に行ったことのある場所へ出かけることもあります。	

洛和グループホーム坂本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を考え配慮しながらテーブルや席の配置をしている。会話のかみ合わない時は職員が間にはいり会話に参加したり行事などの際はいつもは離れているテーブルを1つに繋げたり利用者様同士の関係の支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も信頼関係に基づいたフォローを行っています。継続してボランティアなどでグループホームに関わって下さる家族様もいらっしゃいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部を利用して利用者の思いに寄り添う取り組みをしています。また、職員が支援していく中で感じた事などを「振り返りシート」に記入し、ケアを振り返る事で、情報を共有し、本人の想いに沿ったケアの提供をしています。	入居前の面談で生活歴や趣味、嗜好品、ホームでの暮らし方の希望などを聞き、病院からの情報なども得て意向の把握に繋がっています。入居後は日々の会話や様子等を見ながら気づいたこと等を介護日誌に記載しカンファレンスで検討し職員間で共有しています。また、毎月全職員が個々の利用者の様子を振り返りシートに記載し日々のケアが思いに添っているかや気づきを確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、今までの生活歴をできるだけ詳しくお話してもらい、アセスメント様式に落とし込み、情報の共有をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、介護日誌、管理日誌へ記録を残し、職員間で口頭やノートでの申し送りをし、カンファレンスにおいても利用者様の状態の把握を職員間で共有するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は状態の変化や入院などの場合、その都度見直しを行ない職員は家族様の要望なども念頭におきカンファレンスにて見直し内容を検討、提案し介護計画に反映。家族さまにも説明、同意を得て作成しています。	本人、家族の意向、アセスメント等を基に介護計画を作成し、初回は3か月で見直し、状態が落ち着いていれば6か月、1年で見直し、それぞれ中間でモニタリングを行っています。見直し前には利用者の状況を確認するために再アセスメントを行い、事前に聞いた本人、家族、医師、看護師の意向や意見、職員の意見等を集約しカンファレンスにて話し合い介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌の特記事項は赤字で記入するようにし、また管理日誌にも特変事項は簡潔に記入し職員間の共有を図り、介護計画の見直しにも活用しています。また介護計画に沿った日誌の記入をしプラン内容の介助を行なった際には日誌の始めにプラン内容の数字も記入しています。		

洛和グループホーム坂本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のその時々ニーズに合わせ、個別に散歩や買い物の同行をしていただいたり、時には家族様の了承を得て個別で軽食を食べに行ったりと、できる限り個人の生活満足の向上を目指し個別ケアとして取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、民生委員の方やの地域包括の職員、家族などから地域の催しの情報を集めたり普段より近所などへの良好な近隣関係を築くよう心がけ、何かの時には助けあい利用者様にも安心して安全な暮らしを楽しんでもらえるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは、日常のちょっとした変化や状態、入退院の相談、報告など、往診時や電話、書類などで密に行っており、その都度、指示を仰ぎ適切な医療を受けていただけるよう支援しています。	入居時に今までのかかりつけ医が継続できることを伝え現在は全利用者がホームの協力医に変更しており、月2回ユニット毎に別々の協力医の往診があります。協力医とは24時間連絡可能となっており、急な体調変化があった場合は訪問看護師を通して指示を仰ぎ、往診をしてもらうこともあります。専門医への定期受診には家族が対応し、急な受診は概ね職員が対応しています。週1回歯科往診があり希望や必要に応じて受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の体調管理に合わせ、利用者さんの情報をしっかり伝えられるように職員間で情報を共有しています。また必要に応じて、受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換し、お見舞いなどにも行き病院関係者との関係作りに努めています。また、相談員など専門の他部署との連携をしっかり取るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべての事を十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医と連絡を密に取り、本人や家族の気持ちを大切にしながら今後の方針を決めています。実際に年に1から2件の看取りを行ないました。終末期の対応について、勉強会を行ない、看取り後には意見交換を行って次のケアにいかせるようにしています。	契約時に看取り指針を基に説明をしており、医療行為が発生した場合はホームでの支援が難しいことや家族の協力も必要であることを伝えてあります。重度化した場合は家族、医師、訪問看護師、職員と話し合い方針を共有し、家族の頻回な面会など協力を得ながら看取りの支援を行っています。職員は法人主催の終末期支援についての研修に参加したり、医師や看護師からアドバイスをもらっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて事故発生時の初期対応などを学んでいます。また、マニュアルを設定し、スタッフミーティングなどで確認するようにしています。		

洛和グループホーム坂本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に一度、様々な災害を想定し、訓練または、火災予防の為コンセント周りの掃除などを行っています。また、年に2回消防署指導の下、消防訓練、避難訓練を行っています。運営推進会議にて結果や課題について検討しています。	年2回消防署の立会いの下、通報や初期消火、避難誘導等の訓練を行っています。地域には回覧板で案内をしており、運営推進会議の日に訓練を行うことで会議のメンバーの参加を得ることもあります。年4回独自の訓練も行っており、地震や水害を想定したり、コンセント周りの点検などを行っています。地域の防災訓練に参加することもありホームの訓練時の協力依頼をしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシーに配慮した声掛け、対応を心がけ行なっています。入浴やトイレでの利用者様の羞恥心に対しては特に気を配って援助しています。	年1回の接遇やプライバシーに関する研修を受け、全職員に伝達を行い周知しています。利用者が不快にならないよう信頼関係に基づいた言葉かけを行い、声の大きさ等に留意しています。ミーティングの中で言葉遣いなどについて話し合う機会も持っており、不適切な言動が見られた場合は管理者が注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の希望の確認を取りながら行なうと共に、やりたい事が職員の方が先にわかっているとしても「待つ介助」をすることで利用者様の自己決定を促すよう働きかけるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムやペースを大切にしたい援助を行ない、利用者様のやりたい事したいことを引き出せるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせ、同じ服の繰り返しにならないように注意しながら更衣介助をするようにしている。男性利用者には髭剃り、女性利用者にはお化粧やマニキュア等職員と一緒に楽しんで行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けも出来る利用者様には出来るだけやっていただけるように促し支援し、食事の色合いや見た目などにも工夫をするよう心がけ個々に合った食事形態にし提供している。	食事は三食ともホームで作っており在庫の食材を見て、利用者の好みも聞きながらユニット毎にその日の献立を立てています。利用者には炒めたり、盛り付け等できることに携わってもらい、職員と同じ食卓を囲み談笑しながら食事を摂っています。クリスマスや正月等行事に合わせた食事やホテルやレストランでの外食、出前、手作りおやつ等、食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食が進まない利用者様にはお握りやふりかけを用意するなどの工夫をし、食事の把握が出来ない、または自力摂取の出来ない利用者様には介助にて対応。水分も食事以外に午前のティータイム、おやつ、入浴後等に都度すすめ、必要により水分摂取表を用いて水分量の把握を図って支援している。		

洛和グループホーム坂本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自立の利用者様以外は毎食後職員にて口腔ケア介助を行ない毎週1度、歯科往診にて歯科医より口腔ケアにおける注意点を個々に指導を受け一人ひとりに合った対応をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、利用者様の様子を見ながら、時間を見計らいトイレの促しや誘導をするなど出来るだけ尿意、便意のタイミングを外さないように支援しています。また立ち上がりや掴まり、衣服の上げ下ろしなども個々に合った対応に努めています。	日中はトイレでの排泄を基本とし全利用者の排泄記録を基に個々の利用者に合わせて声かけやトイレへの誘導を行っています。夜間のみ睡眠などを考慮しポータブルトイレを使用している方もいます。排泄の支援方法や排泄用品については月1回のミーティングや随時に話し合い、現状維持や自立に向けた支援ができるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お通じの良い乳製品や果物を特に朝のメニューに取りこむようにしたり、医師との相談にてお薬でのコントロールも行なっています。また、ひどい便秘の利用者様などは訪看にて摘便の処置をしてもらうこともあり個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日とも時間も決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴してもらえよう心がけています。	毎日準備し午後から週2回以上の入浴を目途に支援しています。午前や夜間など希望があれば検討するようにしています。湯は毎回入れ替え、入浴剤を使用したり、個別のシャンプーを使用するなど個々に合わせて入浴を楽しんでもらっています。入浴拒否のある場合は職員を変更したり、入ってもらいやすい時間なども工夫しながら無理のない入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も個々に合わせ、眠たくなったら就寝準備を援助し安心して就寝してもらえようようにしています。また、不眠時も状況に応じてホットミルクを出し入眠を促すなどの対応を図っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様全員のお薬手帳を管理し、薬の変更なども日誌や申し送りノートにて周知。お薬説明書も常に職員が回覧できるようにしており、職員全員が把握、理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や買い物の同行、洗濯たたみなど役割を持っていただくように支援しています。個々の楽しい事などもカンファレンスにて私の姿と気持ちシートを用いて気付きを話し合い個々の楽しみを把握し提供できるように努めています。		



洛和グループホーム坂本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、行きたいと言う全ての利用者様の希望にそっての外出は出来ていないが、家族様にも協力していただき面会時での外出や外食なども含め出来るだけ希望に添えるように努めています。	日々の散歩や買い物、文化祭などの地域の行事への外出の他、初詣や桜の花見、紅葉見学、琵琶湖博物館などに出かけ、ホテルでの会食には家族にも参加してもらい一緒に楽しんでいます。希望を聞きながら個別に軽食に出かけるなどできるだけ外出の機会を持ったたり、ベランダなどで外気に触れる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がおらず、紛失のリスクもあり、お金を持っておられる利用者様はいませんが、必要なものや望まれるものは家族様よりお預かり金という形で職員が本人様と一緒に買いに行くような形で対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応しますが、特に希望もなく促しにも同意される利用者もおられない為、実践的な支援は出来ていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔と、整頓に心がけ、季節感や思い出の振り返りが出来るよう壁には季節の行事の飾り物や近い日の行事や外出、食事などの写真を飾り、リビングの出口引き戸のセンサーも鳥のさえずり音にするなど居心地よく過ごせるように工夫をしています。	フロア入り口には多くの観葉植物や正月の生花が活けられ、リビングには随所にパッチワークや鏡餅、凧などの正月用の飾り物が置かれ季節を感じることができます。畳コーナーの他にも随所にソファやベンチ、椅子等が置かれ、好きな場所で昼寝をしたり、ゆっくりと寛いで過ごせるよう配慮し、ソファの配置は掴まりながら歩行できるよう工夫をしています。毎日掃除や換気を行い、室温や加湿にも配慮し快適に過ごせるような共用空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルの他にソファ席のテーブルや、ベランダには木のベンチを置いたスペース、他、窓際にも外を眺められるように椅子を配置し個人の居場所作りを工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人様臥居心よく落ち着けるよう、家族様にもお願いし基本的に馴染みのものを持ってきていただくようにしているが、逆に混乱や寂しさの原因にならないよう、その方に合わせ配慮している。	入居時に馴染みのものを持ってきてもらうよう伝え、筆筒や文机、テレビ、椅子、仏壇、位牌、ラジカセ等持参したものを家族が配置しています。入居後は動線など考慮し家族と相談しながら変更することもあります。好きな写真を飾ったり、家族や自身のアルバム、孫の作品、趣味の園芸の本などもそばに置き、その人らしく安心して暮らせるような居室作りに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにプレートをつけたりトイレ、浴室、廊下、リビングなどにも手すりを設けており、居室にもその方に合わせた動線に考慮し個々に合わせた環境を工夫している。		